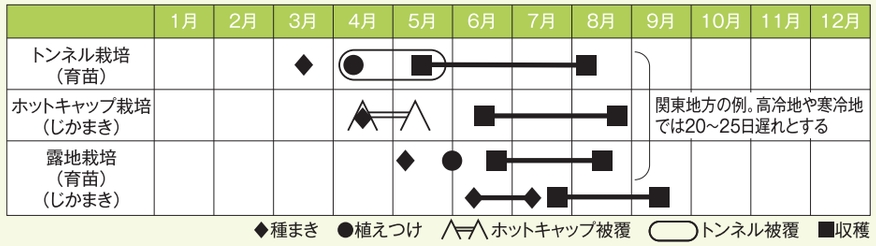
栽培ポイントとスケジュール

- 根は土壌中の水分や空気含量に敏感で、土壌水分不足や土壌孔隙の少ない畑では生育不良になりやすい。良質な堆肥を十分に施し、よく根を張らせ、灌水を入念に行なって栽培する。
- 生長は極めて早く、また、茎葉の組織はもろく風に当ると折れやすいので、支柱立て、誘引をおくれることなく、入念に行なう。
- 果実の肥大が一斉に行なわれ、収量が増加したあとは疲れがでやすいので、追肥をおくれずに。また、若どりして着果負担の軽減をはかる。



ジェイエース登録内容

2021年3月現在

粒剤

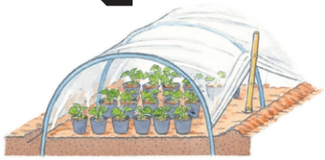
作物名	適用病害虫	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセフェートを含む農薬の総使用回数
きゅうり	オンシツコナジラミ アブラムシ類 アザミウマ類	3~6kg/10a （1株当り1~2g）	定植時	1回	作条散布 又は植穴処理	1回

有機リン剤（ジェイエース剤を含む）は長年使用されているため、地域によってはコナガ、アブラムシ類、アザミウマ類などに薬剤抵抗性が発達している可能性があります。そのような地域では、異なる薬剤とローテーション防除を行なってください。

1 苗作り

3号のポリ鉢に種をまく

ビニールトンネル



発芽するまでは密閉、発芽したら換気し、30℃以上にしないように

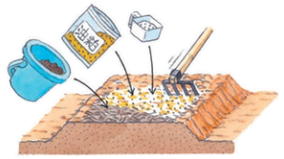
本葉1枚のころ1本立てにする

本葉4～5枚の苗に仕上げる

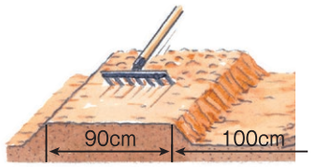
2 元肥入れ

1㎡当り

堆　　肥	7~8にぎり
油　　粕	大さじ5
化成肥料	大さじ5



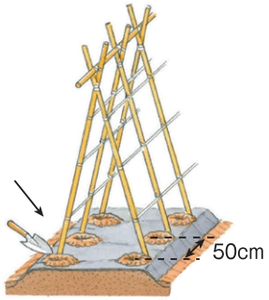
キュウリの根系は広く浅く分布するので、元肥は全面にばらまいて鍬で15～20cmくらいの深さにうない込む

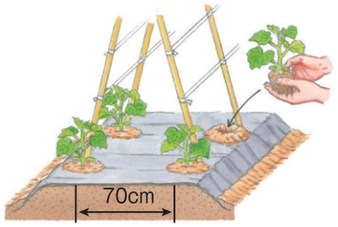


通路の土を畝の上に盛り上げて平らにする

3 支柱立・植えつけ

合掌の位置はできるだけ高くしておく
支柱を立てたら植え穴を掘っておく



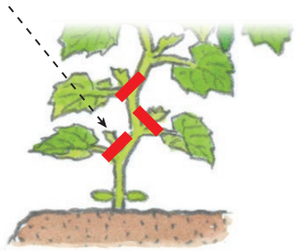


支柱を立てたら植え穴を掘っておく

アブラムシ類やオンシツコナジラミ、アザミウマ類の発生を未然に防ぐため処理する

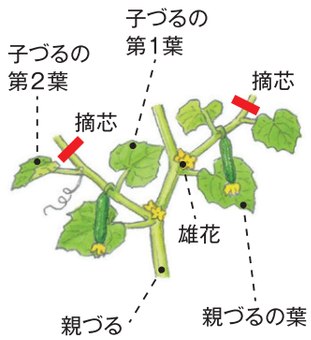
4 摘芯・整枝

かき取る



下の方数節のわき芽はとり除いて株元が込み合わないようにする

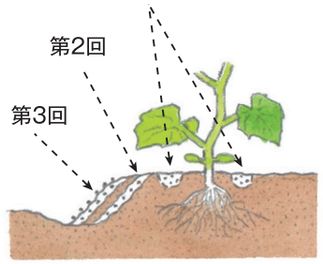
頭上の高さで摘芯する



子づる、孫づるは本葉2枚を残し、その先で摘芯する

5 追肥・防除

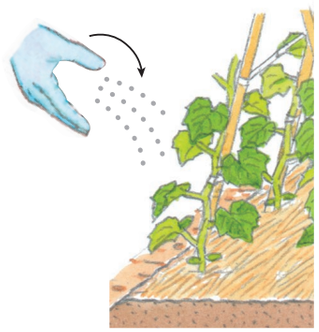
第1回株の周りに



いずれも通路側にまいて中耕したら土とまぜて畝の肩に寄せる

各回とも1株当たり

化成肥料	大さじ1
油　　粕	大さじ2

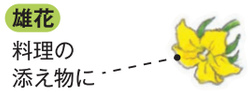


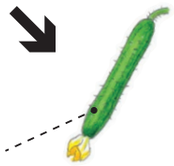
6 収穫

肥大が早いので、とりおくれないようにはさみで切り取る

雄花

料理の添え物に



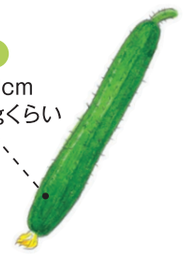


モロキュウ

（草勢が弱ったときに）
長さ10cm～12cmくらい

通常の大きさ

長さ21～22cm
90g～110gくらい



草勢に応じて収穫の大きさを変えて楽しむ